

PCSA アクションレポート(遊技法研究会)

平成 31 年 3 月版

第 73 回遊技法研究会

- 開催日時 平成 30 年 3 月 28 日（木） 午後 2 時 45 分～午後 3 時 45 分
開催場所 PCSA 会議室
出席人数 委員 8 名、アドバイザー 12 名、オブザーバー 4 名、合計 24 名
出席者 <担当理事>
石川 直史 株式会社ワールド 代表取締役社長、理事
<委員長>
荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社 監査役、法律問題研究部会 リーダー
<副委員長>
石山 一広 三本コーヒージャパン株式会社 常務取締役
<委員>
大石 明德 株式会社ニラク 取締役、副代表理事
國澤 良平 株式会社大商 景品流通部部長
小玉 幹雄 株式会社昭和堂 専務取締役
木崎 英之 ゼニス株式会社 取締役統括管理部長
岡本 健 株式会社東和商事 常務取締役
<アドバイザー>
加藤 英則 夢コーポレーション株式会社 代表取締役社長、代表理事
齊藤 周平 株式会社グランド商事・アドバンス 常務執行役、副代表理事
金本 朝樹 株式会社アメニティーズ 代表取締役社長、副代表理事
藤本 達司 株式会社ダイナム 代表取締役社長、理事
城山 朝春 ミカド観光株式会社 常務取締役、理事
福井 宏彰 株式会社ポネール AM 事業部 次長、理事
金光 淳用 株式会社ヒカリシステム 代表取締役社長、理事
河本 成佑 株式会社晋陽 代表取締役社長、理事
中島 基之 一般社団法人パチンコ・チェーンストア協会、専務理事
宮村 伸輔 株式会社エルゴジャパン 常務取締役、監事
佐藤 公平 株式会社ダイナム 取締役会長、モデレーター
牛島 憲明 牛島憲明事務所 代表、アドバイザー
<オブザーバー>
荒川 潤志 株式会社ミカドグローバル 取締役営業本部長
平野 真人 株式会社大商 代表取締役専務
伊藤 信明 オムロンアミューズメント株式会社 営業課長
古寺 利光 オリックス株式会社 アミューズメント営業部 課長

1) 業界におけるリスクについて

風営法違反処分や風営法の刑事処分と罰則等について、情報を共有した。

2) 賞品の適正な提供と啓発活動について

適切な賞品提供の手法について、問題点や課題点がないか意見を交換した。また、啓発活動の進め方について情報を共有、検討した。

3) 時代に適した風営法を求める議員連盟 遊技機基準等 PT について

平成 31 年 3 月 12 日に開催された掲題の会合内容について説明された。

1. 出玉率と依存問題の因果関係について

依存問題対策として著しく射幸心をそそげない為に、平成 30 年 2 月施行の規則改正で出玉を抑制している。なお、出玉抑制の数値的な根拠には、RSN 相談者の 7 割が 1 月に遊技に使う 5 万円という金額、標準的な遊技時間が 4 時間という事から従来の出玉の 3 分の 2 となった、と説明された。

2. 遊技機検定基準等（試験の適性化）について

試験指定機関（保通協）の検定において、規則改正を経て、試験基準を変更、パチンコ 4 時間 スロット 1600 回の試験を追加、試験のやり方は変えていない、と説明された。業界団体からは、スロットの旧基準機では通過率が 40%であったのが、現在は 18%強と異常な低さである事。また、スロットの 17500 回の試験は 30 時間の遊技時間に相当しており、パチンコの 10 時間に合わせて欲しいという事。パチンコでは、1 時間試験で 9 割が落ちるが絶対確立の為に工夫の仕様がなく試験運用において対応して欲しいと述べた。

研究会では、試験指定機関（保通協）の検定費用としてメーカーはおよそ 50 億円を使用、32 億円は不通過となった分だという指摘や、認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク 西村 直之 代表の「出玉率と依存関係の因果関係について、科学的に証明する因果関係はない」という発言などが取り上げられた。また、当 PT に対しては、「依存症対策と出玉率の因果関係の科学的立証」「遊技機の適合率向上」などを要望してはどうかという意見が検討された。

4) 次回開催

平成 31 年 4 月 18 日（木）

午後 2 時 45 分～午後 3 時 45 分

PCSA 会議室

以上